

【6月21日】カナダで「ラトビア歌の祭典」開催

(2009/06/21 日曜日 22:14:04 JST) - 投稿者 webmaster - 最終更新日 (2009/06/21 日曜日 22:30:27 JST)

? 第二次世界大戦終了後のソ連によるラトビア統治時代、多くのラトビア人がカナダ、アメリカ、オーストラリアや西欧に亡命しました。亡命したラトビア人たちは、ラトビア人としての連帯感を持ち合い、アイデンティティーを強める手段として「歌の祭典」の伝統を守り続けてきました。1952年、カナダのトロントで「Latvian Song Day」が開催され、その2年後の54年10月には、第1回「カナダ・ラトビア歌の祭典」が開催されました。1992年にソ連邦の配下から独立を果たした後も継続され、今年は13回目を迎えます。期間中(7月1日~5日)、ハミルトンの下町はラトビア色になるだろうと報じられています。ジンタルスも参加 ジンタルスの指揮者・アイラさんから堀口大樹ラトビア語教室講師に届いたメールによると、今年はジンタルスがこの祭典に参加するため、25日にカナダへ向うそうです。ラトビアから「ジンタルス」の他に、合唱団「ブルティエクス」、「バルシス」なども参加します。? 祭典スケジュールの概略は次に通ります。7月1日 民族の日 ラトビア音楽・踊り、民芸品の展示、子供たちの催し、民族ダンス競技会など。2日 開会式 民謡から現代音楽まで、歌を通しての祝賀。祭典は太鼓の音で最高潮に達すると言われる。さらにラトビア系カナダ人の現代作品展、宗教音楽コンサートなども行われる。3日 民族衣装のショー、ミュージカル、野外での集い(バーベキューなど)が賑々しく行われる。4日 新バレエ競技会、合唱コンサート、みんなで踊るラトビアフォークダンス、大合唱コンサートなどが行われる。これには、北米の合唱団も参加し、ラトビアのクラシック作曲家の作品から現代のカナダ・ラトビア作曲家の作品が歌われ、最後にカルニンシュの「真夏の夜の夢」が歌われる。同時にフェスティバル・ディナー、フェスティバル・ダンスなどの催しもある。5日 閉会式 キリスト教全宗派による礼拝、ラトビアの作家による朗読、北米・ラトビア人500人による民族舞踊スペクラルなどが予定されている。最後はフェアウェル・ディナー、フェアウェル・ダンスで閉幕となる。 【Latvija編集室】?